



SUAA

Shimane University Alumni Association

島根大学同窓会連合会 機関誌

March.2013 Vol.7

同窓会連合会



この「SUAA」は、同窓会連合会及び各学部同窓会の活動や母校島根大学のトピックスなどを同窓会員の皆様にお届けする同窓会連合会の機関誌です。

本号では特に「しまだい学友会(仮称)の組織化(案)」を掲載しました。

地方における特色ある大学として母校島根大学が発展していくためには、支持母体を強化することが重要です。

この支持母体の最大のものが卒業生(同窓会)ですが、この卒業生(同窓会)に在校生、旧現教職員などを加えた支持母体と母校島根大学との生きた関係づくりを目指し、母校・同窓会連合会・各学部同窓会の役員会で「組織化(案)」を検討しているところです。同窓会員の皆様からご意見をいただければ幸いです。

同窓会連合会は、ホームカミングデーの開催、ホームページの運用、機関誌の発行などを通じ同窓会員の皆様と母校とを繋ぐ役割を果たしていきたいと思っております。

同窓会員の皆様の同窓会活動への積極的なご参加・ご協力をお願い致します。

島根大学同窓会連合会会長 江口 博晴



2012年4月から代表幹事に就任いたしました塩飽です。これまでボランティアで各学部同窓会を設立・運営されてきた諸先輩に心から敬意を表します。同窓会は、島根大学の最も心強い応援団であると考えており、同窓会との連携強化に努めています。

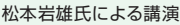
今年度は島根大学同窓会連合会としては、1)各学部同窓会の支援強化(新同窓会員募集や名簿整理)、2)連合会の地域支部設立または運営の支援(有楽町での古代出雲文化フォーラムを契機にした関東支部設立、島根大学広島オフィスと広島支部の連携強化)、3)島根大学や山陰地区での同窓会地域・職域支部、しまだい学友会(仮称)の設立準備の目標を立て、各学部同窓会との協議を重ねています。こうした場で、同窓会や同窓生の皆様から心強い励ましのお言葉を賜ることも多いですが、島根大学はもっと頑張れとお叱りのご意見もいただいております。同窓会員の皆様方と一緒に、島根大学の発展のために大いに汗をかくつもりですので、今後とも忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

島根大学同窓会連合会代表幹事 塩飽 邦憲



活動状況

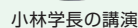
● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●



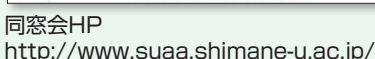
野津雄太氏と古川浩美氏による演奏会



佐藤同窓会連合会副会長



- 役員会／平成25年3月
- 第7回ホームカミングデー／平成25年10月
- 機関誌第8号の発行／平成26年3月
- 学部同窓会への支援
- 連合会地域支部及び職域支部の設立
- 校友会組織の設立準備



活動状況

第6回ホームカミングデー(平成24年10月6日(土)開催)に併せ、法文学部同窓会では、同窓生4名から体験発表、その後4つの班に分かれて、同窓生・現役学生・教員による意見交換会を実施しました。夕方からは会場を大学からホテルに移し、法文学部同窓会交流会を開催しました。

平成24年度では、法文同窓会九州・沖縄支部設立の動きがあり、今後、正式な発足が期待されます。また、同窓生からの投稿、同窓会の活動状況を伝える同窓会年報「淞春」第7号も発刊しました。

平成24年の主な活動状況は以下のとおりです。

◆法文学部同窓会役員会

平成24年4月21日(土) 於：島根大学

◆在京同窓会「2012淞春の集い」

平成24年6月30日(土) 於：茗溪谷会館(文京区)

◆広島同窓会「第5回総会・懇親会」

平成24年8月25日(土) 於：メルパルク広島

◆同窓会年報「淞春」第7号発刊

平成24年8月

◆第6回島根大学ホームカミングデー・法文学部同窓会交流会

平成24年10月6日(土)

於：島根大学及びレインボープラザホテル



同窓会交流会

◆◆平成25年度活動予定◆◆

- 法文学部同窓会役員会
平成25年4月20日(土) 於：島根大学
- 文理・法文学部関西同窓会(予定)
平成25年6月22日(土) 於：大阪市内
- 同窓会年報「淞春」年報第8号発刊
平成25年夏
- 第7回島根大学ホームカミングデー・法文学部同窓会交流会
平成25年10月12日(土)
於：島根大学他(日程は予定)
- 九州・沖縄支部設立総会(予定)
平成25年11月



同窓会HP
<http://www.gaku-sei.net/l-douso/>

同窓生からの近況報告



近況報告

錦織 由紀子

文理学部法学科第14期(1966年卒)

松江にUターンしてから、早いもので6年が過ぎました。宍道湖は夕日だけでなく、年中四季折々の風景で私の心を癒してくれます。

現在の私の一番の楽しみは、なんと学生時代には怠けてばかりだった「お勉強」です。松江には、県・市が主催する「〇〇大学」をはじめ、学べる場所は本当にたくさんあります。島大でも、公開講座、公開授業をはじめ、いろいろ社会人向けの講座が開催されています。怠けていた反動でしょうか、今は新しいことを学べるのが嬉しく、喜々として若い学生気分、島大に通学?しています。

また、本好きなので「私設図書館曾田文庫」の運営も積極的に応援しています。皆様にも応援していただけたらとても嬉しいです。



法文同窓会「九州・沖縄支部」設立に向けて!

信濃 憲司

文理学部法学科第22期(1974年卒)

福岡県警刑事部統括参事官を最後に37年の警察人生でした。刑事の仕事を通じて、悪い奴に負けない強い刑事警察を作らなければ、世界一安全な日本の国を築くことはできないと感じました。刑事を目指す学生諸君!大いに期待しています。

松江での還暦同窓会の際、九州・沖縄に同窓会支部がないことが話題となりました。九州・沖縄でも各界・各方面で多くの卒業生が活躍されています。相互の絆を深め、人的ネットワークを築き、母校との交流を深めて社会貢献しなければと思っています。現在、法文同窓会事務局の支援を受けながら本年秋の設立に向けて準備を進めています。九州・沖縄在住の卒業生の皆さん!是非、支部設立にご協力ください。

(株式会社九電工 北九州支店 法務・総務担当部長)

活動状況

◇6月9日：役員総会

総会終了後、「専門教育の成果をいかに教育に生かすか」と題して教育学部長の秋重幸邦先生の講演が行われた。

◇6月27日：教育学部附属FD戦略センター「面接道場」

教員採用試験模擬面接に在松同窓会が協力した。

◇8月23日：同窓会広報誌「Leaf@同窓会」No.4発行

◇10月6日：第6回ホームカミングデー

島根大学ホールで大学企画の「講演」「演奏会」が行われたのち、教育学部と同窓会の共同企画であるシンポジウム「授業に生かす楽しい新聞活用」を学部多目的ホールで開催した。

・コーディネーター：有馬毅一郎氏

・パネリスト：松浦 和之氏 多久和祥司氏 美濃地裕子氏



ホームカミングデー
「シンポジウム-授業に生かす楽しい新聞活用-」

◇12月5日：教育振興奨励賞授与式

同窓会の新事業の一つである「教育振興奨励賞」が教育学部長室において有馬会長から福田哲之氏(言語文化教育講座)に授与された。

◇1月22日：「同窓会誌 第64号」発刊

今号は同窓会60周年記念号として編集したものである。

◇1月23日：卒業生・3回生専攻代表者会

◆◆平成25年度活動予定◆◆

- 6月 役員総会(於：島根大学)
学生・教員によるプレゼンテーション
機関誌「Leaf@同窓会」の発行
- 7月 教師力パワーアップセミナー協力
- 10月 ホームカミングデー(予定)
学部・同窓会共同企画事業
(学生・教員・卒業生の交流会)
- 12月 「教育振興奨励賞」授与式
- 1月 「同窓会誌」No.65号の発行
3回生・卒業生の代表者会
- 3月 理事会



(役員総会)
(教育学部多目的ホール)

※各支部・卒業期・研究室(専攻)等の同窓会を開かれる折には、規定により祝い金を送っています。是非ご連絡ください。



同窓会HP
<http://www.suaa2.shimane-u.ac.jp/edu/index.html>

同窓生からの近況報告



みんな一緒にスポーツを!!

増田 美奈

小学校教員養成課程保健体育専攻(1998年卒)

私は、平成10年3月、教育学部小学校教員養成課程保健体育専攻を卒業し、現在、島根県社会福祉協議会障害者福祉係に勤務しています。中でも障がい者のスポーツ振興に関わる仕事は15年目を迎えるとしており、国体の後に開催される全国障害者スポーツ大会への選手派遣、県大会や障害者スポーツ振興練習会など、様々な事業の中で多くの人に会い「大会楽しかった。また来年も出場するよ。」と声をかけてもらうことがとても嬉しく、励みになり、色々なことを学ばせていただいています。

“障がいのある人と一緒にスポーツをする”

多くの人が「どうすればいいのだろう」「一緒にするなんて無理なんじゃないか」と思われるかもしれませんが、障がい者のスポーツは特別なものばかりではなく、陸上や水泳など皆さんが競技することと変わらないうえ、同じようにすることが難しい時には、ルールを変えたりすることで一緒にスポーツをすることができます。

これからは、障がいのある人もない人も一緒にスポーツをすることがあたりまえな環境になることを願っています。

(社会福祉法人島根県社会福祉協議会・公益財団法人島根県障害者スポーツ協会)



「今の自分を作った4年間」

平田 辰弥

初等教育開発専攻(2011年卒)

私は、平成23年3月、教育学部初等教育開発専攻を卒業し、現在、米子市立加茂小学校に勤務しています。1年目は何もかもが手探りで、ただがむしゃらに、楽しく子どもたちと過ごしました。今年は、教員生活2年目となり、任せられる仕事も少しずつ増え、多忙な毎日の中にも、さらなる充実感を感じています。

島根大学在学中は、1000時間体験学修に一生懸命取り組み、いくつもの社会教育施設で、子どもたちや、施設の方々、そして学生の仲間と多くの経験をさせてもらいました。現在、学級や全校の子どもたちと、楽しいレクリエーションをしながら、絆を深めていただいておりますが、これも、1000時間体験学修で身につけた力です。こんなにも多くの体験を大学生の内にさせていただいたことが、今では私の一番の支えになっています。

まだ始まったばかりの教員生活ですが、大学で培ったものをずっと大切に、楽しいことも辛いことも、子どもたちと日々、分かち合いながら成長していける教師でありたいと思います。

(米子市立加茂小学校・教諭) ※教室での写真(中央が筆者)

活動状況

本同窓会は本部・中四国・東日本・関西・九州の5支部体制を採っており、輪番で支部総会を開催しています。平成24年は東日本支部（細野克彦支部長（1期））が担当し、7月20日、新橋の和食の名店『しまだ鮎』を貸切って行われました。2次会は、歩いて帝国ホテルに向かい、スカイ・ラウンジに河岸を変えて楽しみました。30名を超える同窓生が集い、夜遅くまで旧交を温めることが出来ました。

平成24年の医学研究・医学教育奨励賞は以下の2名の方々に決定し、それぞれ20万円の助成を行いました。地域医療貢献賞は、隠岐広域連合立隠岐病院院長の小出博己（4期）氏に決定し、表彰状と副賞をお贈りしました。

当同窓会は、島根県および大学の要請を受けて、個人情報に十分配慮を行いながら、島根県の医師確保対策にも、全面的に協力を行っています。



東日本支部総会懇親会

平成24年
萌雲会医学研究・
医学教育奨励賞

- ◎島根大学医学部放射線医学講座（放射線腫瘍学）教授 内田 伸恵（3期）
「フラットパネルデテクタを用いた密封小線源治療における位置精度向上に関する研究」
- ◎島根大学医学部附属病院消化器・総合外科 矢野 誠司（2期）
「学生教育および若手外科医育成プログラムの実施」

◆◆平成25年度活動予定◆◆

- 平成25年 7月 関西支部総会（7月20日）
- 10月 ホームカミングデー
- 11月 医学研究・医学研究奨励賞／地域医療貢献賞公募
- 平成26年3月 同窓会報発行
年次総会
医学研究・医学研究奨励賞／地域医療貢献賞授与式



同窓会HP
<http://www.shimane-u-med-postgraduate.jp/>

同窓生からの近況報告



医師の目標・次の世代へ

木谷 光博

島根医科大学医学部医学科1期（1982年卒）

昭和57年卒島根医科大学の一期生です。平成24年より院長となりました。現在54歳となりそろそろゴールを意識する年齢となりました。医師になった当時は研究・臨床に様々な欲と不平不満があったのですが、最近は医師の使命とは奉仕と思うようになりました。

私は院長になっても一神経内科医・臨床医として患者に尽くしたいと思っています。当院は327床の地域基幹病院ですが、地域における医療従事者不足の例にもれません。その中で今年初期研修医が3名当院に在籍しています。今の私の最大の楽しみは、彼らを本当に立派な医師に育てることです。彼らには当院で医師の義務・喜び・楽しみを十分に理解してもらいたいと考えています。平成27年に新病院が完成します。新病院でも医療従事者の研修センターを重視しています。私の最後の仕事は良いバトンタッチをすることだろうと思っています。

（益田赤十字病院 院長）



近況報告

尾崎 米厚

島根医科大学医学部医学科5期（1986年卒）

2012年より鳥取大学医学部医学科の環境予防医学分野の教授を務めることになりました。一般的に言えば公衆衛生学、衛生学のようなところですが。卒前卒後の学生教育、研究、地域支援が任務です。疫学を専門としており、研究対象は喫煙・飲酒行動、がん、高齢者の要介護、自然災害の健康影響等です。社会医学の領域なので、基礎医学というより医学研究の成果を実際の地域社会での健康課題の解決にいかに関与できるかを目指しています。出身地である鳥取県のみならず出身校のある島根県にも様々な接点がありますので、母校とも力を合わせ山陰地域の健康度アップのため、それが有望な後輩を育成することにつながるようがんばっていききたいと思います。

（鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野 教授）

活動状況

看護学科は今春11期生が卒業することとなりました。卒業生は島根を中心に全国に広がり活動をしています。

今年4月には附属病院の新病棟増設、改築が終わり新たな島根大学医学部附属病院がスタートします。現在附属病院では、同窓生が看護職員の1割を超え、2名、副師長として勤務しております。そして今年度同窓生が島根で初となるがん看護専門看護師に合格し、附属病院を中心とし、島根のがん看護の向上に携わっていくこととなりました。

母校である看護学科でも2名が助教として、後輩の教育に携わっており、今後も同窓生が教員として母校に戻ることも増えると考えております。医療者不足が続いておりますが、まずは看護学科、附属病院、島根県における看護職員の不足について協力していきたいと考えております。それに向け、同窓会の体制、活動も本格的に始動できるよう計画しております。



◆◆平成25年度活動予定◆◆

- 平成25年5月 島根支部総会
「(仮)島根のがん看護のこれからについて考える会」
- 平成25年5月 島根支部総会
- 同窓生を対象とした看護を語る会(不定期)



同窓会HP
<http://www.shimane-u-med-postgraduate.jp/>

同窓生からの近況報告



近況報告

宮本 冬美(旧姓:大森)
看護学科第3期(2005年卒)

卒後5年間の附属病院での臨床経験を通し、がん看護の重要性を痛感し、病院からの支援を受けがん看護専門看護師を目指し大学院進学を決めました。そして、2012年第22回専門看護師認定審査においてがん看護専門看護師として合格しました。大学院では、講義と実習を通してがん看護専門看護師としての役割を学びました。修了後、昨年3月より腫瘍センター病棟に配属となり、多職種の方と協働しながら、複雑で解決困難な看護問題をもつ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供できるように努力してきました。予防からサバイバーになるまでの一生涯に渡り患者さんが歩んでいく道を共に支え、専門看護師としてがん医療に貢献できるような活動を行っていきたくて頑張っていきたいと考えています。卒業した大学で専門看護師として新しい一歩を踏み出せることを大変嬉しく思います。
(島根大学医学部附属病院腫瘍センター・看護師)



近況報告

和田 梢(旧姓:岡田)
看護学科第7期(2009年卒)

私は現在、救命救急センターに勤務しています。救命救急センターは外来、第一ユニット、第二ユニットと3部署があり、私は主に外来と第一ユニットに勤務しています。

入職当初は、自分が救急に関わるなど想像していませんでしたが、いろいろな疾患の患者さんと関わったり、血管カテーテル検査などの特殊な処置の介助に入ったりと、他ではできない経験ができています。

また、昨年4月からはプリセプターと教育係を任されており、新人看護師の指導に試行錯誤しています。後輩の指導も行いつつ、部署全体で知識や技術を深めていきたいと考えています。

(島根大学医学部附属病院救命救急センター・看護師)

活動状況

第9回東京支部同窓会が昨年10月27日に島根イン青山(東京)で開かれました。支部総会に続いて小林学長と服部総理工学部長による講演があり、島根大学並びに総理工学部の現状、これから目指す方向について話され、そのあと熱心な質疑応答が行われました。懇親会には他学部の卒業生の方も参加され、その後も3、4次会と続き大いに盛り上がった支部大会でした。支部役員の改選があり、植田会長が今期で退任され、新たに中尾征三氏(地学41年卒)が支部会長に選出されました。

同窓会は支部活動に支えられることが多く全国規模での支部立ち上げが望まれますが、今年は当同窓会の2番目の支部として山陰支部が設立される予定です。

今年は4年に1度の同窓会名簿の発行の年ですが、現在準備を始めたところです。会員数も1万人を越え、充実した内容になるものと期待されます。また総理工学部同窓会総会が開かれます。日時が決まり次第詳細についてお知らせしますので、大勢の皆様方のご参加をお待ちしております。



◆◆平成25年度活動予定◆◆

- 平成25年5月
平成24年度卒業生の動向調査完了
(同窓会名簿の基礎資料)
- 平成25年7月と9月
総理工学部同窓会理事会の開催
- 平成25年10月
総理工学部同窓会総会の開催及び懇親会の開催
(島根大学ホームカミングデーと同時開催)
- 平成25年10月下旬
総理工学部同窓会会員名簿の発行
- 平成25年12月～26年3月
総理工学部入学予定者への同窓会入会案内の送付
平成25年度卒業生の動向調査の開始
(同窓会名簿の基礎資料)
総理工学部同窓会理事会の開催



同窓会HP
<http://www.suaa2.shimane-u.ac.jp/riko/>

同窓生からの近況報告



総理工学部東京支部同窓会から

中尾 征三

文理学部理科学専攻第14期(1966年卒)

私は、島根大学混声合唱団創成期のメンバーの一人です。1968年から、地質調査所という国立の研究所で、海洋地質学の研究に31年間従事し、その後、教科書検定(文部科学省)、私立高校教員などを経験し、5年前から、800人規模の学会事務局で働いています。研究所では、太平洋中央部深海底の鉱物資源(マンガン団塊)や南極大陸周辺の海底地質の研究に携わりました。

さて、平成24年10月の総理工学部東京支部同窓会総会において、長年、活躍された植田英夫会長の後を継いで、会長を務めることになりました。2年に一度の総会参加者は他学部関係者を含めて40名と少しさびしいのですが、強力な事務局長・幹事のもとで、すそ野の拡大と若い世代にとって意義のある同窓会活動を目指して微力を尽くすつもりです。
(公益社団法人東京地学協会 事務局長)



近況報告

河本 元広

理学研究科化学専攻13期(1999年修了)

理学研究科化学専攻を修了し、製薬会社へMR(医薬情報担当者)として就職。現在は、鳥取県のオンコロジー領域を担当しております。

私は大学での6年間、化学合成を含めた物質の変化を学びました。その学びにより体内における薬物動態を知ることができ、医薬品への興味を持った事がきっかけで、MRになる事を選択しました。実際の現場では、薬の知識は勿論、コミュニケーション能力やパソコン、英語力そして体力も必要で、想像以上にハードな仕事内容に、当初は戸惑う事もありましたが、命の現場で日々、真摯に向き合っておられる医師や看護師、薬剤師の姿に、情熱や勇気を頂きながら、今日まで続けることが出来ております。

現在、担当している治療薬は、末期の患者さんへの薬です。「薬になったと喜んでたよ」「通院治療になったよ」と治療の成果を報告して頂けた時、患者さんのお役に立てた事にやりがいを感じます。これからも、医療従事者の方々や患者さんの為に、熱い想いを持って努力し続けていきたいと思っております!

活動状況

今年度、生物資源科学部同窓会では6月に毎年恒例の同窓生による公開講座を開催いたしました。今年度は大原俊二氏(島根農科大学昭和34年卒業)をお招きして「伯耆大山考」と題して、松江テルサにてご講演いただきました。また、4年ぶりに同窓会名簿の発行を行い、11月に念願の同窓会誌を創刊し、広く会員へ活動状況を報告することができました。同窓会誌につきましては引き続き来年度からも年1回程度発行する予定です。

さらに、生物資源科学部の同窓会ホームページ(<http://www.life-suaa.shimane-u.ac.jp/>)をリニューアルし、インターネットを通じて同窓生への情報提供と相互の親睦を図るサイトの充実を図ることができました。

また、平成25年3月の生物資源科学部同窓会の設立の関東支部設立に向けて有志の方々が鋭意準備を取り進めております。3月3日には古事記編纂1300年に連動した島根大学主催によるイベント「古代出雲文化フォーラム～神話・青銅器・たたら～」に合わせて幅広く呼びかけて立ち上げを企画し、晴れて結成の運びとなります。

以上、生物資源科学部同窓会は同窓生の皆様による協力のおかげで近年にない活動をすることができました。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。



◆◆ 平成25年度活動予定 ◆◆

1. 公開講座の開催

開催時期：ホームカミングデー開催日

開催場所：島根大学内

2. 生物資源科学部同窓会評議員会の開催

6月及び10月に開催予定

3. 評議員活動の充実

評議員の改選



同窓会HP

<http://www.life-suaa.shimane-u.ac.jp/>

同窓生からの近況報告



地域の食生活向上を願って

三島 幸二

島根農科大学農林経済科(1966年卒)

私は島根大学農学部の前身である島根農科大学農林経済科を昭和41年に卒業いたしました。卒業2年半ほど肥料・農薬製造の会社で営業に携わりましたが、縁あって昭和44年、松江に基盤を置くスーパーマーケットに転職いたしました。

このスーパーは地域の食生活の向上と、心豊かな生活のお手伝いをすることを常に考え会社経営をいたしております。入社以来43年にわたり、私自身のコンセプトを守り商売を続けていますが、最近が高齢化と人口減少・食の安全・健康等の問題が大きくクローズアップされ、その対応に頭をひねりながらも工夫を凝らして取り組んでいます。

地域の消費者のために「一番身近なスーパーマーケット」として、買い物弱者の方々への無料配送、食の安全(作った人の顔が見える物品)、地産地消商品の拡充、ローカル特産品の紹介などいろいろな努力を続けております。

恩師である北川 泉先生から「これからは6次産業(第1次産業+第2次産業+第3次産業)を考えるべきだよ」と助言をいただき、親しい農業従事者の方々、製造業の経営者の方々、流通業の方々と活発な交流を重ね充実した日々を送っています。



自分の可能性を広げてくれた会社

萱島 頼子

農学部農芸化学科8期(1976年卒)

第一次オイルショック後の1976年、採用を控える会社も多い中、男女関係なく多数採用してくれたタカキペーカリー(現アンデルセングループ)に入社。女性は結婚が決まると「いつ辞めるの?」と聞かれた時代です。でも、パンを買ってくださるお客様の多くは主婦。結婚や子育ての経験が商品づくりやサービスに活かされると、働き続けることを会社は応援してくれました。おかげで2人の息子も巣立ち、今年勤続37年。家族を含め上司や同僚、周囲のサポートがあったからこそと感謝しています。

生産、販売、お客様相談室など、いろいろ経験しました。苦手と思う仕事もやってみると意外に向いていたり、チャレンジすることで可能性が広がった気がします。今はグループの人事・経理・システムなどの間接業務を請け負う会社にいます。先輩たちがしてくれたように、若い人たちにチャンスを与え可能性を広げていきたいと努めています。

(株式会社アンデルセンサービス 代表取締役社長)

ラジオの公開生放送が行われました

5月24日、松江キャンパス本部棟南側の駐車場でNHKラジオ第一「ここはふるさと旅するラジオ」の公開生放送が行われました。

小さなステージがついたラジオイベントカー「80(はちまる)ちゃん号」が、全国の市町村を巡りながら中継放送していく番組で、当日も100人以上の方がステージ前に集まり、良い雰囲気の中で収録が行われました。

小林学長による松江市や島根大学の紹介に始まり、平成23年10月に大学生バンドで全国1位となった「ぼすとん茶の湯会」や、地元の和紙を使って観光地のライトアップを行っている学生団体「mono pro」、県内の商店街を盛り上げようと活動している「ACT」の武田翔太さんなど、島根県内外で活躍する学生たちが日頃の活動を紹介しました。

また、島根大学の取り組みとして、平成24年4月から本学で開講している「島根学」の紹介を教育開発センターの松田岳士准教授が行いました。

この番組は全国放送となっており、島根大学や学生たちの活動を広く紹介する良い機会となりました。



島根県警察と包括的連携・協力に関する協定を締結

10月31日島根県警察本部において、小林祥泰学長、彦坂正人島根県警察本部長のほか関係者が出席して、本学と島根県警察との包括的連携・協力に関する協定の締結式を行いました。

本学と島根県警察は、これまでににおいても防犯活動等において連携・協力を進めてきたところですが、この度の包括的連携・協力に関する協定の締結は、「安全・安心な地域社会の実現」に向けてさらに組織相互の連携・協力を推進していくものです。

締結式で小林学長からは、「島根大学は地域の活性化、及び地域の拠点としての大学を目指しており、地域貢献は本学の重要な使命である。この協定を学生の教育面に生かすとともに、安全・安心な地域社会の実現に繋げていくよう新しいアイデアを出して活動を行っていきたい。」と挨拶があり、彦坂島根県警察本部長からは、「島根大学には活力があり柔軟性のある若者があふれている。この活力と研究成果の蓄積等知的財産も活用させていただきながら相互に緊密な連携を図り、地域の安全安心、住みやすい地域づくりを協働で構築していきたい。」と挨拶がありました。



この協定の締結により本学と島根県警察との連携・協力の機会がさらに増加し、本学学生があらゆる機会をとらえて地域貢献活動に参加することが、学生自身の人間力の向上にも資するものと期待しています。

島根県警察との協定締結により、本学の包括的連携協定機関は、自治体7機関、国1機関、企業1機関の9機関となりました。

カザフスタン共和国・セメイ国立医科大学と大学間協定を締結しました

1月28日、カザフスタン共和国のセメイ国立医科大学からトルベイ ラヒフベコフ学長を迎え、大学間交流協定を締結しました。

セメイ国立医科大学は、カザフスタン共和国のセメイ市(旧セミパラチンスク市)に位置する大学で、カザフスタンでは多くの医師を養成していることで有名です。この協定書では島根大学医学部総合医療学講座の野宗義博教授が発議者となり、同医科大学ナイラ チャイジュムソバ教授をはじめとする関係者と長年現地支援に取り組んできた実績と成果が結びついたものです。今後は、旧ソ連時代に450回以上も行われた核実験で多くの健康被害を受けたセメイ市



地域住民への医学的支援を行い、住民の健康維持に貢献すべく医師の相互派遣による共同研究、研修医の受入、検診等が計画されています。

調印式後には、出雲キャンパスで協定締結を祝しての講演会が開催され、ラヒフベコフ学長、チャイジュムソバ教授、そして星正治広島大学名誉教授に講演いただき、約100名の聴衆がセメイ国立医科大学の概要、セミパラチンスク核実験による被害についての説明を受け、活発な質疑応答行われました。



東京で古代出雲文化フォーラムを開催しました！

3月3日、島根大学の古代出雲文化に関する研究成果を発信する“古代出雲文化フォーラム ～神話・青銅器・たたら～”を、有楽町朝日ホールで開催しました。

第1部「アカデミック・セッション」では、大日方克己氏(法文学部教授)の基調講演「古代出雲の世界」から始まり、「出雲の青銅器文化」、「出雲の四隅突出型墳丘墓」、「古代出雲の鉄文化」、「現代に生きるたたらと日本刀の科学」の講演で古代出雲文化の変遷、近畿、九州、朝鮮半島との関わりと独自性をわかりやすく解説しました。

第2部「カルチャー・セッション」では、福島敦子氏、佐野史郎氏と小林祥泰学長が「出雲神話のロマン」と題して、自然や様々な縁に神の存在を信じ、神々を敬ってきた日本文化のルーツを語り合いました。最後に、河添達也氏(教育学部教授)が作曲・指揮し、NHK交響楽団員により『「古代の声」～出雲のコスモロジー～(2013)』が演奏されました。

第1部を古代出雲文化の知についての語りとする、第2部は古代出雲文化を五感で受け止め、未来に向けての夢を語るセッションとなり、参加者からも大変好評でした。

共催の島根県、島根県教育委員会、松江市、出雲市、安来市、雲南市、大変なご尽力をいただきました島根大学同窓会東京・関東支部の皆様、島根県をはじめ県内市町村の東京在住者の皆様に心より感謝申し上げます。

なお次回は、平成26年3月9日(日)に広島国際会議場で「たたらと日本文化」(仮題)を開催いたします。



ご逝去された
名誉教授

(平成24年度)

謹んでご冥福をお祈りいたします。(本学から報道機関へ公表した方のみ掲載、平成25年2月末現在)

◎法文学部

内藤 正中 様 (平成5年3月31日退職)

吉井 友也 様 (昭和60年3月31日退職)

吉賀 正浩 様 (※)

◎教育学部

伊藤 俊彦 様 (平成18年3月31日退職)

碓井 エイ 様 (昭和59年4月1日退職)

知念 辰朗 様 (平成12年3月31日退職)

吉田 功 様 (平成18年3月31日退職)

◎島根医科大学医学部

島田 宜浩 様 (平成3年3月31日退職)

◎農学部

落合 英男 様 (平成7年3月31日退職)

(※)ご遺族の希望により退職年月日の公表を控えております。



本庄総合農場のサクラ(表紙も農場のサクラ)



人とともに 地域とともに
国立大学法人

島根大学



島根大学同窓会連合会

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学総務部総務課
TEL.0852-32-6015 E-mail:suaa@office.shimane-u.ac.jp